



そがし 蘇我氏は、どんな一族だったの



6世紀の中ごろから、約1世紀にわたって栄えた、
有力な豪族だよ。

蘇我氏は、後の時代につくられた系図によれば、第8代孝元天皇の孫（またはひ孫）といわれる武内宿禰の子の、蘇我石川宿禰に始まるとされています。しかし、実際には、先祖や出身地について、いろいろな説があります。

稲目・馬子の時代に勢力をのばした

蘇我氏は、6世紀の中ごろに、稲目が大臣になったころから、勢力をのばしました。稲目は、仏教の受け入れをすすめて、これに反対する物部氏・中臣氏と対立しました。稲目の子の馬子も、推古天皇まで4代の天皇の下で大臣をつとめ、その間に、物部氏をほろぼしたり、意見が対立した崇峻天皇を暗殺したりしました。聖徳太子のきさきは、馬子の娘です。こうして、蘇我氏の力は、皇室を上回るほどになりました。

蝦夷・入鹿の時代に、おとろえ始めた

626年に馬子が死に、子の蝦夷が大臣になると、天皇との仲が悪くなってきました。蝦夷の子の入鹿は、天皇の後つぎをめぐる対立から、山背大兄王（聖徳太子の長男）の一族をほろぼしました。645年、飛鳥板蓋宮で、入鹿が中大兄皇子らによって暗殺されると、蝦夷はやしきに火をつけて、自殺しました。そのため、蘇我氏の本家がほろび、勢力のおとろえが始まりました。

壬申の乱後、ほろぼされた

その後も、蘇我氏の一族からは、蘇我倉山田石川麻呂ら3人が、大臣になりました。しかし、壬申の乱（672年）のときに、敗れた近江朝廷側についたため、乱後、ほろぼされてしまいました。